

中間報告書

令和7年9月15日現在

1 事業名 イタリア野菜でガッツリ儲かる農業の推進プロジェクト

2 実施期間 令和7年4月21日～令和8年2月28日

3 事業内容

(1)事業の目的・概要

輸入品が多く、高単価が期待できるイタリア野菜の産地化のため、昨年度から引き続き、栽培技術の確立、プロモーション活動や販路拡大等マーケティング活動、さらには生産体制の強化を行う。

特産品としてブランド化されている矢掛産「リーキ」に続き、各種イタリア野菜の高品質安定生産を目指すとともに、多彩な販路開拓を推し進め、イタリア野菜産地としてのブランドを確立する。

さらには、このプロジェクトが、矢掛町の観光コンテンツの一つとして、また地域コミュニティ活性化の一助となる等、地域への貢献を目指す。

(2)事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

① 栽培技術体系の確立

夏野菜では、昨年有望と考えられたサンマルツアーノ系統トマトの品種比較とビステッカ（ナス）の収量・品質向上に向け、栽培実証を実施中である。また、秋冬野菜（フェネル等）の実証を開始した。

○栽培実証結果

- ・ “サンマルツアーノ” 系統のトマト・・・昨年、購入者に好評であった「リゼルバ」の種苗入手が不可能となったため、2品種を新たに導入し、比較実証を実施。しかし、本年は酷暑の影響で、生理障害等により品質、収量低下が顕著であった。栽培の改善、品種の再検討が必要である。
- ・ “ビステッカ”（イタリアン丸ナス）・・・接ぎ木、剪定管理の徹底により、品質・収量とも向上した（昨年比140%）。
- ・ “ハーブ”・・・5品種について栽培実証、生産性や販売の可能性を検討中。
- ・ 秋冬野菜・・・“新品目の開発”として「ダルディーボ」や「カリフローレ」の栽培実証を行い、ブランド品目を目指す「フェネル」は高品質・長期出荷に向けた栽培実証を開始した。

② マーケティング

多彩な販路開拓と直販の効率化のため、新たに SNS を活用した受注販売体制の整備、地元販売強化のため販路開拓、万博イタリア館での PR 活動、イタリア料理取扱い業者へのアプローチ等を行った。

○直販強化

SNS（Instagram, Facebook、公式LINE）の活用を開始、これにより、購入者とのコミュニケーションがスムーズにとれるようになった。JA から生産情報の提供と購入者の要望等がリアルタイムで交換でき、効率的な受注管理構築に向け前進した。現時点で新規に料理店1件、一般消費者20件の購入者確保ができた。

○地元（県内）販売の強化

- ・直売所等・・・矢掛町だけでなく、新たに笠岡、総社、玉島の JA 直売所で販売を開始した。
- ・交流施設との連携・・・地元交流施設「矢掛町家交流館」と連携し、イタリア野菜の販売だけでなく展示やランチへの使用等を通じ、町内外への PR、需要の掘り起こしを行った。
- ・市場・・・岡山、倉敷市場にビステッカナスの出荷を開始した。
- ・10 月オープン予定の宿泊施設「やかげ一譚」へのイタリア野菜供給、メニュー開発等について協議を開始した。

○PR 活動

「岡山桃太郎空港エアポートフェスタ 2025」に参加し、夏野菜の販売、プロジェクトの紹介を行った。

③ 生産体制の強化

生産体制の強化と生産拡大を目指し、「イタリア野菜部会」を設立した。また、栽培強化のため講習会や巡回指導を行った。

- ・「イタリア野菜部会」の設立・・・6 月 25 日設立総会を開催、21 名の会員により活動をスタートした。
- ・栽培講習会の実施・・・夏野菜（トマト、ナス）を 4/18、秋冬野菜を 7/31 に開催し、技術指導、実証活動の確認を行った。
- ・7 月 25 日、取り組みを地域内に PR するため、料理教室（トマトの加工等）を開催した。

<今後、実施すること>

① 栽培技術体系の確立

○栽培実証

- ・夏野菜（トマト、ナス）・・・実証結果と販売実績をとりまとめ、今後の生産方針、栽培マニュアルの作成に努める。特にトマトについては、その特性を活かした 6 次化商品の開発も検討する。
- ・フェンネルの高品質生産・・・12～2 月連続出荷を行うための栽培実証に取り組む。首都圏市場に高品質なものを出荷し、リーキに続くブランド品目として育成を目指す。
- ・新品目・・・“ダルディーボ”、“カリフローレ”の栽培実証を行い、収益性の検討を行う。

○情報収集

9 月下旬に種苗メーカーや産地に出向き、高温対策技術、品種情報等について情報収集を行う。

○栽培マニュアルの作成

実証結果と情報収集成果を資に栽培マニュアルの作成に努める。

② マーケティング

○直販強化

料理店等に PR 活動を継続するとともに、SNS を活用し、料理店等に収穫状況や生育状況の情報提供を積極的に行い、受注量を増やすとともに、新たな顧客づくりにも努める。

○首都圏市場への販路開拓

フェンネルの出荷に向け、出荷箱、規格等の作成を行う。また、購入者の感想、要望等を調査し、生産にフィードバック、ブランド化を目指す。

○地元販売の取り組み

カリノーケールやカーボロネロ等一般消費向けに可能性がある野菜については、県内市場へのお荷や直売所での販売を拡大する。また、地元料理店等への積極的なプロモーション、昨年始めた学校給食への定着、地元食品企業との商品開発にも挑戦する。

○首都圏イベントで PR

首都圏でのイベントに参加し、一般消費者、都内料理店への PR を行う。

○六次化の取り組み

イタリアトマトを活用し、トマトソース等の商品開発への取り組みを検討する。これにより、栽培拡大と外観の悪いトマトの有効活用が期待できるうえ、通年販売できる商品をラインアップすることができる。

③ 生産体制の強化

- ・ SNS を活用し、会員のネットワークを構築する。これにより、情報交換や技術共有の場とし、生産意欲、栽培技術の向上を図る。
- ・ 料理人や流通関係者、町民、生産者が一堂に会し、収穫体験やシンポジウム等を行う交流イベント「矢掛テーブルクロス」を開催し、町内での取り組みの認知、近隣地域への PR、生産者の意欲向上を図る。
- ・ 実証や視察調査の成果を生産者と共有するとともに、栽培マニュアルを作成し、高品質安定生産の体制づくりに努める。

(3) これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

評価指標	評価方法	目標	実績
栽培マニュアルの作成	作成品目数	4 品目	0 品目 ※ 2 品目作成中
プロモーション	プロモーション箇所数	4 市場、20 店舗	2 市場、8 店舗
イベントの参加	回数	3 回	2 回（万博、岡山空港）
生産者の拡大	生産者数	生産者 13 人（うち新規栽培者 2 名）	10 人（内新規栽培者 2 名）
生産者の意識変容	生産者への意識変容についてアンケート	「栽培意欲が高まった」の回答率：80%	アンケート未実施
適切な栽培や販売	生産者への聞き取り	「よく理解できた」回答率 90%	聞き取り未実施

有望品目の選定数	実証やマーケティングによる選定数	1 2 品目	6 品目
販売先の拡大	直販料理店数	25 店舗	10 店舗
地域イベントへの出品等による PR	メディア等での広報回数	4 回	2 回

(4)課題等

- ・昨今の夏季の猛暑に対し、高温対策技術、作型の検討が必要である。
- ・生産と直販での品目、時期、量のミスマッチが問題となっている。市場出荷との組み合わせによる安定した販売、また、可能であれば受注生産等の仕組みを検討したい。
- ・矢掛町での栽培適性、販売状況、収益性から見た、最終的な有望品目の選定が重要。
- ・矢掛町のイタリア野菜が一過性のイベント的なもので終わらず、定着させるためには、農業者にとって収益性はもちろん、やりがいを感じる取り組みとする必要がある。

4 参考事項・資料

収支精算書見込又は収支（変更）予算書※

（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した

収支（変更）予算書のこと）

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他

5 次年度以後の事業展開

次年度の事業展開	事業展開の方向性 (以下のチェック欄のいずれかに「✓」を記入してください。)
	<input type="checkbox"/> 提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。 <input checked="" type="checkbox"/> 備中地域みらいづくり支援事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	中期的な目標を実現させるための具体的な事業の内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ PR、プロモーションを継続し、販路拡大、ブランド強化を図る。 ・ 栽培マニュアルの作成と指導強化。 ・ 生産者の募集と有望品目の生産拡大をすすめる。 ・ ・

令和7年度備中地域みらいづくり支援事業 「イタリア野菜でがっつり儲かる推進プロジェクト」

1 栽培技術体系の確立



イタリアントマトの栽培



品種比較（サンマルツァーノ系統）



イタリアンナス（ビステッカスペリオール）



ハーブの試作実証

2 マーケティング

(1) プロモーション・イベントへの参加

大阪・関西万博

展示期間：6/5～6/12



イタリア館前に展示されていた
矢掛町で育てたイタリア野菜たちが
帰ってきました



万博イタリアメインエントランスで、矢掛町イタリア野菜プロジェクトをスクリーンで紹介



JAで万博展示用野菜を生産



岡山空港エアポートフェスタ



(2)直販強化



SNSの活用



宅急便で直販

(2)地元での販売強化



町内農産物直売所でコーナー設置



総社市「旬感広場」



ナス「ビステッカ」の県内市場出荷

六次化への挑戦

トマトソースづくり



3 生産体制の強化



6/25 「イタリア野菜部会設立総会」



夏野菜講習会 4/9, 7/9



矢掛町で開かれたイタリア野菜部の設立総会
会場の様子

イタリア野菜産地化へ 生産者組織立ち上げ 矢掛

JA晴れの国岡山 25日、矢掛町内で産地（倉敷市玉島八馬）は「イタリア野菜」の生産者組織「イタリア野菜プロジェクト」に立ち上げた。約20種類の野菜を展示した。

同JA矢掛アグリセンター（同町小松）で、この日開いた設立総会には、関係者30人が出席。同JAの山部真一代表理事が「イタリア野菜の産地化を推進し、生産者の所得向上を目指す」とあいさつした。

同JA矢掛アグリセンターでは、イタリア野菜の生産技術向上を図り、農産物の所得向上を目指す。同JAの山部真一代表理事が「イタリア野菜の産地化を推進し、生産者の所得向上を目指す」とあいさつした。

同JA矢掛アグリセンターでは、イタリア野菜の生産技術向上を図り、農産物の所得向上を目指す。同JAの山部真一代表理事が「イタリア野菜の産地化を推進し、生産者の所得向上を目指す」とあいさつした。

イタリア野菜部会設立

JA晴れの国岡山 安定多収生産へ

【晴れの国岡山】JA晴れの国岡山は、部会員27人のイタリア野菜部会を新たに設立した。イタリア野菜を栽培する矢掛町は、県南西部に位置する人口1万3000人の、清流の恵みあふれる里山の町。2020年の東京オリンピック・パラリンピックイタリアチームのホストタウンになり、アスリートたちを同町の野菜で応援。その味は選手らに大好評で、この縁を基に「矢掛町イタリア野菜プロジェクト」を22年に立ち上げた。

県内外の人々がイタリア野菜の生産者になるイタリア野菜の栽培の食卓（テーブル）で、25年6月にイタリア農業の体験型イベント「テラ・イタリア」を開催する。このイベントは、イタリア農業の体験型イベント「テラ・イタリア」を開催する。このイベントは、イタリア農業の体験型イベント「テラ・イタリア」を開催する。

JA晴れの国岡山 安定多収生産へ

イタリア料理「ピッツァ」への食材提供、イタリアパビリオン前にイタリア野菜畑の展示が実現した。

プロジェクト立ち上げから3年の経過でイタリア野菜の栽培技術が高まり、安定多収な生産と経営改善を目的に部会設立となった。

初代部会長に選ばれた高月周次郎さん（75）は「収量向上と販売力を入れ、生産者、矢掛町、JAが一丸となってトップ産地を目指す」と意気込んだ。